

景観

LANDSCAPE

観

KEIKAN

上越人のD・N・Aを探る

景観アドバイザーからのメッセージ

1 サイン景観について

昔の山道では石ころが目印や記号になっていました。看板やサインというのは、必ずしも文字が入っていて機能がなければならぬものではありません。何をどう伝えたいかが重要なことです。色、形、バランス、レイアウト等いろいろな要素が加わって感じ方が変わります。目立たせるだけではなく、それを見て、考えて、思ってもらうことが大事なのです。いいお店などではそういうところも考えられていて、伝わり方が違います。

2 デザインについて

景観まちづくりでは、ただデザインするだけではなく、地域やそこに携わるみなさんに参加してもらう手法を多く実施しています。他市では、農業高校と隣接した病院のデザインにおいて、病院の中に高校生たちが勉強できるようなスペースや、農業高校で育てた食材を使った料理を提供してもらえるレストラン等を計画しています。病院や学校それぞれの垣根をなくしていけば、人の交流が生まれてそれが地域となっていきます。建物や見た目だけを考えるのがデザインではありません。

また、同じく他市の事例ですが、建て替えを予定している火葬場のデザインにも関わっています。廃炉されて駐車場になってしまう炉の跡地に思い出に残るように緑地帯とメモリアルのプレートを設置したり、新しい炉にはただの番号ではなくストーリー性のあるアイコンをつけたりすることを考えています。お金がかかることだけがデザインではありません。地域や利用者の思いを考えて工夫していくことが重要です。

3 これからの上越市に期待すること

上越にはみなさんが自慢できるお店を増やしてほしいと思います。あそこのカフェに行ってみてくださいとか、あのお寿司屋さんいいですよとか、みなさんに紹介できるお店を少しでも増やしてください。そういった引き出しが増えていけば、まちづくりにつながり、まちの景色や雰囲気も良くなっていきます。

富山県の八尾では、坂のまちアートというイベントをやっています。町家等でアート作品を展示するイベントですが、作家さんがその家に間借りしたお礼に作品をプレゼントしていただきます。これが自慢になり、近所の話を聞いてうちの家も町家風に直して使ってもらおうとなっていくことで、みるみるうちに町家が再生しました。毎年作家が入り替わるので、ギャラリーになる町家は作家との付き合いが増えていき、人との付き合いが財産になります。上越市でもそのような取り組みで、街並みが良くなっていくといいですね。



島津 勝弘 氏
島津環境グラフィックス有限公司 代表取締役。平成11年から上越市の景観づくりに携わっている。

景観まちづくりの取組み



現在、南本町3丁目で景観まちづくりに取り組んでいます。平成28年度はまちの景観資産や課題などについて話し合い、まちなみのシミュレーションや色彩基準ワークショップを行いました。

引き続き、地域のみなさんと「景観」を取り入れたまちの課題解決に取り組んでいきます。

景観アドバイスを ご利用ください!

上越市では良好な景観づくりの実現に向けて、周辺環境に調和させるにはどのようなことに配慮したらよいかなどの視点から、色彩、照明、デザインなどについて、専門家によるアドバイスを実施しています。

景観の行為の届出に関する事前相談や景観まちづくりに関する相談を行っておりますので、ぜひご活用下さい。



上越のサインデザインと景観
上越の「サインデザイン」/サインデザインの考え方

上越のサインデザインと景観

「サイン」とは、スーパーで野菜売り場を探したり、初めて行くまちで交番を探したり、新学期に自分が向かう教室を探したりする時に目にする表示や記号、案内図のことです。信号機や車のテールランプなども「サイン」の一種です。このような私たちの何かの行動のよりどころとなる情報を、かたちとして表したものを「サイン」といいます。

この「サイン」はまちに溢れており私たちの生活に身近なものです。「サインデザイン」を考えることは、まちの景観を考えることにもつながります。

今回は「サインデザイン」をテーマとして、上越市のデザイン担当の景観アドバイザーである島津勝弘氏に話をお聞きしながら、上越市の景観を考えてみましょう。

上越の「景観」の印象

Q 上越市の景観についてはどのような印象でしょうか？

A 駅周辺や雁木があるエリアなどでは昔の面影が感じられ、上越らしい景観が残っていると思います。しかし、そうでないところとの差が大きく、今後の上越市の課題だと思えます。
また、駅周辺や雁木でもサインデザインを工夫することで、より上越らしさを引き立てることができます。

上越の「サインデザイン」

市内にはどんなサインがあるかいくつか見てみましょう！

お店からサインデザインのコンセプト(構想)をお聞きし、アドバイザーからコメントをいただきました。

LUSSO(下門前) 美容院・カフェ・雑貨屋



コンセプト パッと見て分かりやすく工夫しました。美容室、カフェ、雑貨屋の複合ショップで「心地良い空間とさりげない贅沢」をテーマとしています。

コメント オシャレなロゴと建物の優しい色合いからお店の雰囲気や想像でき、可愛いビクトグラムで、無理に目立たせなくても十分情報が伝わりますね。

※ビクトグラム：絵文字のように簡単な図等で何らかの情報を示す視覚記号の一つです。

桜本町薬局(本町) 薬局



コンセプト 高田の町家のイメージで和モダンを取り入れ、ロゴは格子を基調としてデザインしました。

コメント 最近の院外処方薬局のケバケバしいサインデザインを良く見ているので、このようなとてもシンプルで上品なデザインから、丁寧な対応が想像出来るお店に見えますね。

sakura de la noche(本町) カフェ



コンセプト スペイン語で夜の桜の意味。レトロすぎずモダンすぎない親しみやすい外観をイメージしました。

コメント アーケード通りの小さなカフェですが、大きな白い壁面の照明ブラケットとオシャレな英文フォントに、あえてレトロ感が出ている和文を組み合わせるなど、入りたくなる気の効いた演出です。

四季邸一縷[いちる](下源入) 和食処



コンセプト 朱色の太鼓幕は秋冬限定。和食の繊細さをイメージした一筆書きのロゴをあしらっています。

コメント 伝統的な和風建築にインパクトのある朱色を使っていますが、「いちる」の店名表現を最小限に抑えることでその効果が増し、朱色がサインとしてだけでなく、装飾的な壁色のような効果となっています。

サインデザインの考え方

Q 上越市内のいろいろなお店のサインデザインを見てきましたが、サインの整備にあたって何が重要ですか？

A お店や施設のコンセプトをどのように表したいかが重要です。下の二つの例では、サインを整備する人の気持ちやその地域への思いが表されています。

おのうえこどもクリニック(富山県滑川市)



このクリニックは、暖かい色合いと、こども達が怖がらない病院にしたいとのご要望を受けてデザインしました。こども達に伝わる最小限の情報をデザインするだけとして、すぐに認識出来るオレンジレッドのカラーに読みやすい「ひらがな」と「カタカナ」の名称として、優しい先生なのかと思ってもらえるイラストを組み合わせ、シンプルなデザインとしています。「良いね」と思ってもらえるサインデザインは、最低限の情報を最小限にデザインすることが大切です。

佐野記念病院(大阪府泉佐野市)



この病院は関西国際空港にも近いこともあり、空をコンセプトに新しい病院のテーマカラーをまとめ、爽やかなスカイブルーのデザインとしました。白い外壁の清潔感のある病院建物でもあるので、サインデザインはスカイブルーだけを使い、表記内容を最小限の情報に削ぎ落として、明瞭なコントラストがデザインに生きるように、地域のみなさんにも印象に残るサインデザインとしました。

Q 他に見せ方のポイントはありますか？

A 伝えたい情報をどうやって伝えるかを考えることが重要です。例えば情報が多すぎて伝わりにくい場合もあります。下の写真では、情報を整理することで利用してみたい施設としました。

CiCビルサインリニューアル(富山県富山市)



このビルは、富山駅前商業複合施設として開業20年以上が経過し、外壁のテナントサインが増えていき、Before(改修前)のとおり外壁全てがサインのような状況でした。しかし、北陸新幹線が開業する機会に、景観に配慮したシンプルで利用してみたい施設となるように

と、全国でも初めての事例となる外壁のテナントサインの撤去を行いました。通常ではテナントなどの反対により考えられない事業でしたが、ビル管理会社や行政とも連携し、入居テナントにご理解をいただき実現しました。After(改修後)の写真を見ると一目瞭

然です。とてもスッキリとしたデザインで、テナント情報はLED照明の自立サインに集約して整理しました。懸念されたテナントの売り上げが落ちることなく、地域からとても評価される事業となりました。